

「航空会社の対応適切」

呉市議マスク拒否 専門家ら指摘

呉市議の谷本誠一氏(65)がマスク着用を拒否して旅客機から降ろされ、1時間以上の遅延を生じさせたトランプは、17日に呉市議会初の政治倫理審査会が開かれるなど波紋を広げている。谷本氏は「着用の強制は人権侵害」「私も被害者だ」と正当性を訴えるが、専門家は「航空会社の対応は適切だ」と指摘する。

谷本氏は6日午前、北海道の釧路空港から出発する旅客機にマスクをせず搭乗。離陸前の機内で客室乗務員から着用を求められたが拒み、複数回の説得にも応じなかったという。機長は航空法に基づき安全阻害行為等として命令を行い、他の旅客に不快感を与え、または迷惑を及ぼすおそれ

のある場合」などと認められた場合に搭乗を断れるとした運送約款に基づき、谷本氏を降ろした。

桜美林大の戸崎肇教授(航空政策)は「客室乗務員や機長の指示に応じず、離陸後に規律を乱す恐れがある。安全運航を守るため搭乗拒否は当然」とみる。航空会社は他の乗客に不快感を与えないよう気を配り、海外では強い香水の匂いが降機を命じる理由になるケースもあるという。

出発直前の客室乗務員はシートベルトの装着やドアロックの確認など、多くの保安業務に当たる。特定の旅客と押し問答が続けば、安全な運航をするための業務に支障が出かねない。

谷本氏は、普段から新型

コロナウイルス対策のマスク着用などへの反対活動を展開。崇城大の池辺洋一郎教授(航空保安)は「主義主張はしかるべきところで訴えればいい。機内で言い合うことではなく、業務妨害と見なされる」と苦言を呈す。一方で谷本氏は、発言の場を確保する狙いで市議会ではマスクを着用している。筑波大の原田隆之教授(心理学)は矛盾を指摘し、「ルールを守る人に権限が与えられるのは議場も機内も同じ。サービスに従事する立場の弱い人を攻める姿を見せつけたかっただけに映る」と話す。

市役所には17日までに1

600件以上の苦情などが寄せられ、市議会事務局は「連日電話が鳴りやまず、通常業務に支障が出ている」と明かした。中国新聞には谷本氏と同じ便の乗客から「嫌悪感を覚えた」という声も寄せられた。原田教授は「自分の『正義』を貫くために多少の迷惑は仕方ないと思っているとすれば、それはゆがんだ正義感だ」と指摘した。(上木宗達)